

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 017	提案機関名 県央愛川農業協同組合
要望問題名 夏場の秋冬野菜播種における高温対策	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 近年、夏季の異常な猛暑により秋冬野菜の播種時における発芽不良が著しく、当JA内の生産者の多くの方から播種段階での失敗報告が多く上がっている状態となっています。 そこで、秋冬野菜全般の播種における高温対策を、抗高温性品種、生産資材、播種時の注意点など多角的な視点から実現可能な範囲での解決策を教えてください。お願いします。 なお、当JAの生産者は露地野菜の低価格野菜を生産する農家が多く、ハウスや育苗ユニットを活用した解決方法は費用対効果の面で難しいと考えられますので、考慮していただくなくても大丈夫です。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) II-2(1)ア 野菜の高品質安定生産技術の開発		
対応の内容等	ご要望いただいた播種における高温対策のうち、生産資材については、「べたがけ資材の利用」、「播種部分の敷き藁やもみ殻マルチの利用」等が「高温に対する農作物等の技術対策情報」や「少雨・高温対策マニュアル(野菜)」などにより多く報告されています。また、各種苗会社のカタログ等を品種選定の参考にしてください。一方、播種方法については、高温・低温・乾燥条件下で発芽率を向上させる溝底播種技術が開発されており、軟弱野菜やタマネギで試験が行われていますが、愛川町で大きな被害が出ているダイコンでは試験例がなく、また、豪雨時に溝が崩れるなどの課題もあります。そこで、令和8年度から秋冬どりダイコンを対象に、溝底播種技術の改良および高温対策としての有効性について試験を実施します。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	・「高温に対する農作物等の技術対策情報」 https://www.pref.miyagi.jp/documents/18738/r7kouonngijututaisaku.pdf ・「少雨・高温対策マニュアル(野菜)」 https://www.pref.oita.jp/uploaded/life/2303019_4502772_misc.pdf ・Furrow Bottom Seeding Under Row Cover to Accelerate Vegetable Growth in a Cold Season (Ozawa and Okada, 1996) ・タマネギ直播栽培のための溝畝施肥播種機の開発(松尾ら, 2022)		